

清河八郎ゆかりの地巡る

幕末の志士 湯田川温泉でイベント

庄内藩出身の幕末の志士で、新撰組の前身「浪士組」を結成した清河八郎（1830～93）の没後150周年を記念し、鶴岡市の湯田川温泉で11月4日、清河ゆかりの場所を巡る観光イベントが開かれる。同温泉観光協会は「清河にちなんで湯田川を感じ上げたい」と意気込んでいる。

清河は現在の庄内町清川出身で、若くして江戸に学び、文武両道を修めた人物。自ら主導して幕府に結成させた浪士組には、近藤勇や土方歳三も参加。ところが倒幕を構想し、幕府攘夷を

唱えたため、1863年に幕府により暗殺された。明治維新の先駆けとも評され、鶴岡市出身の時代小説作家・藤沢周平は、清河の生涯を「回天の門」という作品で取り上げている。湯田川温泉は、清河が妻・お華と出会った場所。母と半年間にわたって全国を旅した時も出発地に選んだ。新撰組と同じく浪士組を母体とし、江戸の薩摩藩邸の焼き打ちなどを行った新撰組が、戊辰戦争の際に同温泉に陣取り、庄内藩と一緒に新政府軍と戦った歴史もある。

(34)はイベントを通じて、清河を広く知ってもらいたい。温泉街の観光資源にしていきたい」と話している。

イベントは、全国の清河ファンが4月に設立した「清河八郎を学び継ぐ会」と同温泉観光協会が主催。清河が母との旅で記した日記「西遊草」に登場する温泉街周辺を散策するほか、県内の文化や歴史に詳しい山形大の山本陽史教授が、清河と幕末の日本の関係について講演する。

また、戊辰戦争時に新撰組の本拠が置かれ、清河のものと考えられる脇差が残されている単人旅館で、参加者による懇親会も行われる。同旅館を運営し、温泉街の歴史に詳しい庄司廣平さん

定員50人。参加費は一般1000円、地区住民500円。懇親会参加の場合は別途3000円必要。申し込みは26日まで。問い合わせは、単人旅館（Onsens 35・onzens）へ。